



家計調査

世帯票

基幹統計調査



農林漁家世帯

農林漁家世帯以外の世帯

1 勤労

2 勤労以外

3 無職

1 市町村番号

2 抽出区分

3 調査世帯番号

1 調査世帯番号

2 世帯主氏名

3 世帯主氏名

1 市町村番号

2 抽出区分

3 調査世帯番号

1 単身 2 二人以上

1 農林漁家世帯

2 農林漁家世帯以外の世帯

3 無職

1 市町村番号

2 抽出区分

3 調査世帯番号

1 市町村番号

2 抽出区分

3 調査世帯番号

Table with columns for household type, gender, age, occupation, and other demographic data.

Table with columns for housing structure, tenure, and other housing-related information.

Table with columns for income, assets, and other financial data.

Table with columns for labor force status, education, and other social data.



基幹統計調査

家計調査

準調査世帯票



国勢調査 統計局

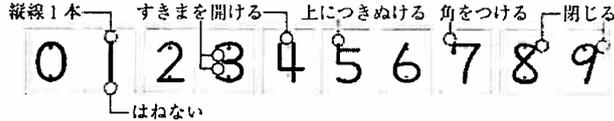
【記入のしかた】

- 下の記入例のように記入してください。
- 記入には必ず黒鉛筆を使用してください。書き間違えた場合は消しゴムできれいに消してください。

✓の記入例



数字の記入例



世帯の別	
単身	二人以上
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

この調査票は複数世帯にわたりますので汚したり折ったり丸めたりしないでください

市町村番号	単位区符号	一連世帯番号	記入開始月
●●●●●●	●●●●	●●●●●●●●	●●

(1) 農林・非農林の別	(2) 世帯区分	(3) 交替の種類	(4) 抽出区分
1 2	1 2 3	1 2	1 2
農林漁家世帯	農林漁家世帯以外	勤労者世帯	勤労者世帯以外
世帯	世帯	世帯	世帯
		無職世帯	職定期臨時
		世帯	世帯
		交替	交替
			最初に抽出された世帯
			その他の世帯

世帯主の氏名	(5) 世帯主の満年齢	(6) 世帯人員	(7) 就業人員
●●●●●●●●	●● 歳	●● 人	●● 人
(8) 世帯主のしている仕事の内容	符号欄	(9) 性別(単身のみ)	
●●●●●●●●	●●	男	女

(10) 所有関係	1	2	3	4	5	6	7
持ち家	民営の賃貸住宅(設備専用)	民営の賃貸住宅(設備共用)	公営の賃貸住宅	都市再生機構・公社等の賃貸住宅	給与住宅(社宅・公務員住宅など)	借間	

(家計費について) ※(11)については二人以上の世帯のみ記入

(11) 1か月の家計費総額	税金 貯蓄 借金返済 などを含まない生活費	約	●●●● 万円
----------------	--------------------------	---	---------

備考 (不採用の理由について)

●●●●●●●●	符号欄
----------	-----

市町村番号	単位区符号	調査世帯番号	一連世帯番号	記入開始月
●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●	●●●●●



家計調査



基幹統計調査

年間収入調査票



総務省統計局

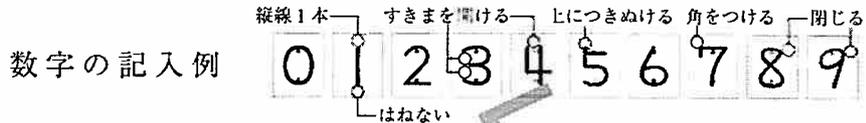
世帯の別
 単身 二人以上

●この調査は、統計法に基づき政府が実施する基幹統計調査です。秘密の保護には万全を期していますので、ありのままを記入してください。

記入済みの調査票は、別にお配りした封筒に入れ密封の上調査員にお渡しください。

【記入のしかた】

- 記入の際には、「用語の説明」を参照してください。
- 記入は、□の枠内に1文字ずつ下の記入例のように記入してください。
- 記入には必ず黒鉛筆を使用してください。書き間違えた場合は消しゴムできれいに消してください。



この調査票は機械にかかけますので汚したり折ったり丸めたりしないでください

あなたの世帯の過去1年間の収入は **税込み**でだいたいどのくらいになりますか
 世帯主の分か他の世帯員の分かはっきりしないものは **世帯主の欄**に記入してください

	(世帯主)				(他の世帯員)					
	千	百	十	一	千	百	十	一		
(1) 勤め先 年間収入	定期収入…	□	□	□	□	万円…	□	□	□	万円
	賞与・その他 の臨時収入…	□	□	□	□	万円…	□	□	□	万円
(2) 営業年間利益…	□	□	□	□	万円…	□	□	□	万円	
(3) 内職年間収入…	□	□	□	□	万円…	□	□	□	万円	
(4) 公的年金・恩給…	□	□	□	□	万円…	□	□	□	万円	
(5) 農林漁業収入…	□	□	□	□	万円…	□	□	□	万円	
(6) その他の年間収入…	□	□	□	□	万円…	□	□	□	万円	
(7) 現物消費の見積り額… (自家産物や自分の店の商品を) 家計で消費した分の見積り額)	□	□	□	□	万円					

2 借入金について

あなたの世帯では 今月1日現在で借入金あるいは月賦・年賦の未払残高がありますか

- 借入金の種類ごとに残高を記入してください。
- ここでいう借入金には、家計用だけではなく個人営業のための分も含めてください。

	公 的 機 関 <small>(住宅金融支援機構、都市再生機構、日本政策金融公庫(旧国民生活金融公庫)、郵便貯金・簡易生命保険管理機構、旧日本郵政公社)など</small>	民 間 機 関 <small>(銀行、信用金庫、農業協同組合、生命・損害保険会社など)</small> <small>※ゆうちょ銀行・かんぽ生命保険を含めます。</small>	そ の 他 <small>(社内貸付、勤め先の共済組合、親戚・知人、サラリーマン金融など)</small>
	(億)千 百 十 一 : : : : : : : : : : : : : : : :	(億)千 百 十 一 : : : : : : : : : : : : : : : :	(億)千 百 十 一 : : : : : : : : : : : : : : : :
(1) 住宅の購入・建築・増改築 土地の購入のための借入金残高	万円	万円	万円
(2) 住宅・土地のための借入金以外 の借入金残高	万円	万円	万円
<small>※次の欄には、乗用車、電化製品などの耐久消費財や衣類などを月賦・年賦(分割払い)で購入した場合の未払残高を、公的機関・民間機関・その他を区別せずに記入してください</small>			
(3) 月賦・年賦の未払残高	(億)千 百 十 一 : : : : : : : : : : : :	万円	

3 住宅などの建物・土地について

住宅などの建物や土地を購入したり 建物を新築する計画がありますか
次の当てはまる を塗りつぶしてください。

<input type="checkbox"/> 今後3年以内に購入する計画あり	<input type="checkbox"/> 1 住宅の購入又は新築	<input type="checkbox"/> 2 土地の購入	<input type="checkbox"/> 3 土地の購入及び住宅の購入又は新築			
				※ 1,2 共に当てはまる場合は時期の早いものを選んでください		
				<input type="checkbox"/> 1 今後3年以内に増改築を予定	<input type="checkbox"/> 2 今後3年以内に設備工事、修繕等工事を予定	<input type="checkbox"/> 3 その他
<input type="checkbox"/> 3年以上先に購入する計画あり	<input type="checkbox"/> 4 将来、住宅・土地を相続・贈与の予定	<input type="checkbox"/> 5 その他				
			<input type="checkbox"/> 1 今後3年以内に増改築を予定	<input type="checkbox"/> 2 今後3年以内に設備工事、修繕等工事を予定	<input type="checkbox"/> 3 その他	
<input type="checkbox"/> 特に購入する計画なし	<input type="checkbox"/> 4 将来、住宅・土地を相続・贈与の予定	<input type="checkbox"/> 5 その他				
			<input type="checkbox"/> 1 今後3年以内に増改築を予定	<input type="checkbox"/> 2 今後3年以内に設備工事、修繕等工事を予定	<input type="checkbox"/> 3 その他	

記入済みの調査票は、下の調査員記入欄が「提出用封筒」の窓から見えるように入れ、密封の上調査員にお渡しください。

調査員記入欄				
市町村番号	単位区符号	調査世帯番号	一連世帯番号	記入年月
: : : : : : : : : : : :	: : : : : : : : : : : :	: : : : : : : : : : : :	: : : : : : : : : : : :	: : : : : : : : : : : :

(資料6)
平成26年12月8日
第55回基本計画部会資料

未諮問基幹統計(家計統計)についての委員の御質問・御意見等について

通し番号	基本計画部会で確認したい事項	確認したい事項とお考えの理由
1	現状、実查がどの程度困難となっているか具体的に教えて欲しい。	<p>現行の家計調査は、記入者、調査実施者ともに負担が大きく、調査環境が悪化傾向にあると思われる。</p> <p>「家計調査等改善検討会」(総務省統計局開催)において、幅広い検討がなされたと聞いている。その模様を踏まえ、検討状況を教えてほしい。</p>
2	抽出における代替票について	<p>「調査をどうしても引き受けられない世帯の場合には、代替の世帯を抽出している」とあるが、代替を採用する際の規定はどうなっているのか。昨今の回収率の低下に伴い、代替票を安易に活用し、何ら説明なしに回収率としてカウントしているケースが認められる。家計調査では、代替票を安易に採用しないよう調査員への周知を行っているとは思いますが、この点確認したい。</p>
3	人口構成の変化に応じたサンプリングとなっているか	<p>昨今の少子高齢化等、人口の構造変化に対応した統計調査である必要があるため。</p>
4	単身の若年層世帯は、調査協力が得られ把握できているか	<p>単身世帯、特に若年層の調査協力が得られにくいのではないかと懸念されるため。</p>

通し番号	基本計画部会で確認したい事項	確認したい事項とお考えの理由
5	代替の世帯は、家計調査に協力しやすい世帯(例えば、専業主婦の世帯等)に偏ることはないか。	家計調査の調査対象となった世帯は、6カ月間にわたり家計の収支を報告することになり、報告者負担はかなり大きい。そのため、共働きの世帯や夫婦共に多忙な世帯等では、「調査をどうしても引き受けられない」とこととなる可能性が高いと思われる。
6	代替の世帯も含めた調査対象世帯の分布が、全国の世帯の分布と比較して、偏っていないかどうかをチェックしているか。	もともと調査対象の標本数が9000世帯程度と小さいだけに、わずかな標本数の偏りでも調査結果に与える影響は大きいので、代替の世帯を抽出するに際しては、標本に偏りが出ないような工夫が必要であると考えられる。
7	実査困難を背景としたサンプルセレクションバイアス等により、調査対象世帯にどの程度の偏りがみられるか。	<p>現行の家計調査は、記入者、調査実施者ともに負担が大きく、調査環境が悪化傾向にあると思われる。この結果、調査協力が得られないことによるサンプルセレクションバイアス等により調査対象世帯が偏り、収入や消費の水準・変化といった調査結果にゆがみがみが生じている可能性があると考えられる。具体的には、専業主婦世帯が多く、共働き世帯などが少ないといった対象世帯の偏りがあるとの指摘が学界などからなされている。</p> <p>「家計調査等改善検討会」(総務省統計局開催)において、幅広い検討がなされたと聞いている。その模様を踏まえ、検討状況を教えてほしい。</p>
8	家計調査と家計消費状況調査を統合するための検討はどうか。	かつて家計調査と家計消費状況調査を統合し、家計調査の調査期間を短縮する等が検討されたが、その後の状況はどうか。景気指標として有用とされる家計消費状況調査の消費総額の最新月の情報が一次QEで利用可能でないか、統合により家計消費状況調査の速報化が可能になるのではないか。
9	家計消費状況調査との統合化(家計消費状況調査の公表の早期化も含む)	<p>統計局内部で検討会を開催し、様々な観点から諸課題の検討ならびに試行的な実験を行っていることを評価する。その検討内容およびこれまでの実験結果の現状の把握という意味で、確認したい。</p> <p>家計統計はQEでの利用、景況判断の材料として重要視されているが、同時に、家政学の分野での分析等でも重要な統計である。それらの分野での利用状況やニーズについても把握する必要があるのではないか。</p>

通し番号	基本計画部会で確認したい事項 記入者負担の軽減について	確認したい事項とお考えの理由 将来に向けて継続可能な調査とするためには記入者負担の軽減が必要と考えるため。
10		
11	記入者負担の軽減方策の検討状況について	継続可能な調査とするためには対象者に調査を受けてもらえるよう記入者負担の軽減が必要と考えるため。
12	回答者負担を軽減し、調査の持続性を高める方法について検討状況を教えてください。	<p>家計統計について、以下の方向性での検討が必要なのではないかと考える。 対象世帯の「偏り」の改善に向けた対応としては、報告者負担の軽減を図り、共働き世帯等の調査の持続性を高めることが最も重要な対策とみられる。具体的には、調査の電子化、モニター調査の導入、生鮮食品の重量記入廃止、貯蓄・負債残高の調査頻度引き下げ、などが候補。また、調査に協力するメリット（例えば家計簿の診断結果送付、報酬引き上げ）を調査対象世帯に提供することも考えられよう</p> <p>「家計調査等改善検討会」（総務省統計局開催）において、幅広い検討がなされたと聞いている。その模様を踏まえ、検討状況を教えてください。</p>
13	ITの活用による実査の効率化・オンライン化の検討状況	<p>PCやスマートフォンなどの普及に伴い、オンラインによる回答の可能性が高まっていると思われる。 調査対象者の回答の利便性を高めることは、調査への協力度及び統計の精度の向上につながると期待できる。 新しい技術の導入は、短期間に行うことは難しく、十分な準備が必要である。 このような観点から、現在どのような検討や準備が行われているのか状況を知りたい。</p>
14	PCやスマホからの調査方法採用の可能性について	<p>本調査は、家計の実態を把握するために詳細な家計簿を作成してもらいデータ化するものであるが、その方法（家計簿への記入）に何らかの負担軽減の工夫は検討されているのか。若年、壮年層においてスマートフォンやスマートフォンの普及も高く、手軽に入力できるようなシステムができると回答に際しての負担が軽減されるかもしれない。 ただ、全体として高齢化しており、ITリテラシーが上がったといえども全ての回答形式をオンラインで実施することは難しいし、また複数の調査方法が並存することのコストも考慮しなければならぬ。このあたりのところについて、いかなる方策が検討されているのか確認したい。</p>

通し番号	基本計画部会で確認したい事項	確認したい事項とお考えの理由
15	レシート方式の採用の可否	統計局内部で検討会を開催し、様々な観点から諸課題の検討ならびに試行的な実験を行っていることを評価する。その検討内容およびこれまでの実験結果の現状の把握という意味で、確認したい。 家計統計はQEでの利用、景況判断の材料として重要視されているが、同時に、家政学の分野での分析等でも重要な統計である。それらの分野での利用状況やニーズについても把握する必要があるのではないか。
16	数量記入継続の可能性	数量(重量)情報が直接的に把握されていることは、経済データとして家計調査の大きな特徴となる。報告者負担が大さいことから、調査非協力の一因ともいえるけれども、できるだけ継続して数量を調査することを希望するため。
17	「数量」の記入は必要か。	数量の情報がどのように利用されているのか、定かでない。以前は消費の高級化の測定などに使われていたが、最近はそのような分析をほとんど見ない。数量の記録が回答者の負担感を強めているとすれば検討する必要がある。また、食料については6か月調査から最初の1か月に短縮されたが、安定的な結果を得ているかどうかを確認したい。
18	人々の調査協力を得やすくなるようなインセンティブを盛り込んだり、調査負担を軽減する余地がな いかどうか。たとえばPCを用いた記入を可能にす ること等。	当該調査から得られる情報はこの上なく貴重であるので、人々の調査協力を得やすくなるようなインセンティブを盛り込む余地や調査負担を軽減する余地を今一度検討できないか。 例えば、当該調査に協力することで、初めて家計簿をつけ、その有用性に気づく世帯も少なくないことを考えると、調査票に記入したデータが後日残るようにすることは、ひとつのインセンティブになると考えられる。 PCを用いた記入を可能にすることは、調査負担の軽減だけでなく、この点においてもメリットがある。
19	家計統計の標本誤差を減らす方法について検討 状況を教えて欲しい。	家計統計の作成目的は、1)年齢・所得・世帯人数の各階層別の消費、収入、貯蓄・負債構造の把握、2)景気動向指標、QEの基礎統計としての利用などである。これらに関する利用ニーズに現状対応できているか、を検討することが重要と考 えている。 平均的な収入・支出を算出する際、地方都市を細かい都市区分で表章し、ウエイト付けする結果、誤差が増幅し、平均の 振れが大きくなっている可能性が考えられる。このほか、毎月6分の1ずつ標本が入れ替わることも、毎月の振れを生む要 因となっていると考えられる。 「振れ」の改善に向けた対応としては、地方都市ごとの表章に重点を置いた標本設計の見直し、推計方法の変更(継 続サンプルに大きなウエイトをおくAK estimatorの導入など)が一案と考えられる。 「家計調査等改善検討会」(総務省統計局開催)において、幅広い検討がなされたと聞いている。その模様を踏まえ、検討 状況を教えてほしい。

通し番号	基本計画部会で確認したい事項	確認したい事項とお考えの理由
20	支出や所得の振れを均すような推計方法の導入について検討状況を教えてください	<p>家計統計の作成目的は、1)年齢・所得・世帯人数の各階層別の消費、収入、貯蓄・負債構造の把握、2)景気動向指標、QEの基礎統計としての利用などである。これらに関する利用ニーズに現状対応できているか、を検討することが重要と考えている。</p> <p>平均的な収入・支出を算出する際、地方都市を細かい都市区分で表章し、ウエイト付けする結果、誤差が増幅し、平均の振れが大きくなっている可能性があると考えられる。このほか、毎月6分の1ずつ標本が入れ替わることも、毎月の振れを生む要因となっていると考えられる。</p> <p>「振れ」の改善に向けた対応としては、地方都市ごとの表章に重点を置いた標本設計の見直し、推計方法の変更(継続サンプルに大きなウエイトをおくAK estimatorの導入など)が一案と考えられる。</p> <p>「家計調査等改善検討会」(総務省統計局開催)において、幅広い検討がなされたと聞いている。その模様を踏まえ、検討状況を教えてください。</p>
21	単身世帯と二人以上世帯の統合について	<p>昨今単身世帯の増加が認められ、家計についても二人以上世帯と同様に単身世帯の家計の実態を明らかにするニーズが高まっている。これまで家計調査では、層化3段抽出法の第3段において、単身世帯と二人以上世帯を別々に選出している。そこで、単身世帯と二人以上世帯を最初に区別せずに等確率で抽出するやり方についてどのようにお考えか。</p> <p>これまで単身世帯と二人以上世帯を別々に抽出してきた経緯も含め、今後、抽出段階で分けずに検討する可能性はあるのかを確認したい。</p>
22	単身世帯調査の充実	<p>統計局内部で検討会を開催し、様々な観点から諸課題の検討ならびに試行的な実験を行っていることを評価する。その検討内容およびこれまでの実験結果の現状の把握という意味で、確認したい。</p> <p>家計統計はQEでの利用、景況判断の材料として重要視されているが、同時に、家政学の分野での分析等でも重要な統計である。それらの分野での利用状況やニーズについても把握する必要があるのではないか。</p>
23	若年共働き世帯の増加等ライフスタイルの変化に応じた対応について	<p>若い共働き世帯では家計が個別に管理されている事例が多いと思われるが、ライフスタイルの変化に応じた調査の対応も念頭に置くべきではないか。</p>

基本計画部会で確認したい事項		確認したい事項とお考えの理由
通し番号	個計化の把握	統計局内部で検討会を開催し、様々な観点から諸課題の検討ならびに試行的な実験を行っていることを評価する。その検討内容およびこれまでの実験結果の現状の把握という意味で、確認したい。 家計統計はQEでの利用、景況判断の材料として重要視されているが、同時に、家政学の分野でも重要な統計である。それらの分野での利用状況やニーズについても把握する必要があるのではないか。
24		
	家計統計の精度と他の統計との整合性及びそれに関する情報提供	家計調査の結果は、他の標本調査と同様に、標本誤差、非標本誤差の影響を受けやすい。所得や消費動向に注目が集まる時期には、公的統計の精度が高まる傾向がある。 このような中では、家計調査の精度や他の関連統計との整合性について、利用者に対して参考となる情報を提供する必要がある。このため、これまでどのような検討や情報提供が行われているのか説明を聞きたい。
25		
	短期パネルデータとして利用できるよう、世帯IDを加える可能性についてはいかがか。	現状の調査方法・内容を全く変えずとも、世帯IDを加えるだけで、6か月間にわたる世帯単位でのパネルデータが利用可能になる。そのことにより、学術研究面での当該調査の有効性は大きく高まることが期待される。
26		
	スライカカード等による支出の把握状況	現在の家計簿方式でも、形式的にスライカカード等による支出は把握されている。けれども、捕捉状態がどれほどであるか懸念されるため。
27		